

☆masaki

学校教育目標 「自らの良さを認め 共に伸びる生徒の育成」

校 訓 「真面目にします 仲よく協力します よい言葉を使います」

2学期終業式式辞

いよいよ今日で2学期が終わります。今学期は、インフルエンザに振り回された学期でしたが、松前中学校の諸行事も無事に終わり、今日の終業式が無事に迎えられることに感謝したいと思います。

さて、皆さんは「時は金なり」ということわざを知っていますか。「時間というのはとても大切なものですよ」という意味ですが、今日は「時は命なり」ということについてお話ししたいと思います。現在日本人の平均寿命は85歳だそうです。皆さんの年齢を3年生の皆さんに合わせて15歳とすると、皆さんに残された時間は、あと70年ということになります。これを秒に直すと70年×365日×24時間×60分×60秒で、約22億秒になります。このうち3分の1は睡眠時間ですから、皆さんの人生(命)は正味14億7千万秒ほどということになります。あと70年という、とても長いように感じますが、あと14億7千万秒と言われたら、途端に短い気がしてきませんか? チッ、チッ、チッと時計の秒針が14億7千万回刻むと、ほとんど人の人生は終わります。しかも、この秒針は、私たちが食事している時も、トイレに行っている時も、あるいは今この瞬間にも容赦なく進んでいます。毎日、ゲームやテレビに2時間近く使っている人は、毎日7千2百秒も浪費していることとなります。85歳まで毎日これ続けると、命の12.2%を消費してしまうこととなります。ゲームやテレビに私たちの命の1割以上の価値があるのでしょうか。皆さんは疑問を感じませんか?

また「年をとるほど月日が経つのが早くなる」という言葉を聞いたことがありませんか? 私などは日々実感させられている言葉です。物理学では時間の刻む速さが速くなるなどということは当然ありません。これは、その年齢の方の、心理的な感じ方を言っています。この心理的な時間の経つ速さは「単位時間÷残り時間」で比べることができます。例えば人生85年として15歳の人は残り70年、60歳の人は残り25年です。これを先の方法で計算してみると、15歳の人の時間の経つ速さは0.0142となります。一方60歳の人は0.04で15歳の人の約3倍になります。つまり、15歳の3年生の皆さんに比べて、60歳の私の感覚では、3倍以上の速さで時間が流れていくことが分かります。

このことはもっと短い期間にも当てはまります。例えば3年間の中学校生活です。入学した当初は1か月が「 $1 \div 36 \text{か月} = 0.027$ 」で進みます。ところが3年生の後半になると「 $1 \div 6 \text{か月} = 0.166$ 」と速度が6倍以上速くなります。楽しい学校生活も残り時間が少なくなるほど物悲しくなるのはそのせいかもしれません。これらは、あくまでも感じ方ですが、中学生の皆さんも、毎年、年齢を重ねていくごとに、どんどん時間が経つ速度が速くなることを実感させられると思います。

私たちの命は無限ではありません。有限です。今現在もその与えられた時間は刻々と減っています。無駄にできる時間はありません。家族と過ごせる時間も、学校で勉強できる時間も、先生や友達と語り合える時間も、全てに限りがあります。自分に与えられたこの限られた時間を、精一杯大切に使うべきだと思いませんか?

「時は金なり」ではありません。「時は命なり」です。そのためにも、皆さんが本当にやりたいことを早く見つけ、それに向かって懸命に努力することが大切だと思います。

明日から冬休みです。3年生の皆さんにとっては、最後の追い込みの期間です。希望進路実現のため、しっかり頑張ってください。1・2年生の皆さんは、充実した時間が過ごせるように、毎日、目標を持って過ごしましょう。皆さんの冬休み中の頑張りに期待して、終業式の式辞といたします。

令和5年12月25日

松前町立松前中学校長 福島泰正

本日PTA調査広報部から発行された「ふれあい」に掲載したとおり、私は高校3年生の時、たった一人の兄を交通事故で亡くしました。「ふれあい」に寄稿したことをきっかけに、小さい頃のアルバムについて時を忘れて見入っていました。命名の紙が貼られ、所々に書き込みがされたアルバムの中には、今は亡き兄と写したセピア色の写真が並んでいました。



母からの手紙

以前道德の研究授業をした際、母から今は亡き兄に宛てて手紙を書いてもらいました。

37歳になったお兄ちゃんへ

お兄ちゃん、今天国で何をしていますか？あなたのことだから、毎日忙しく走り回って活躍していることでしょう。いつも笑顔でみなさんに愛されている顔しか母さんには浮かんできません。16年間、必死で生きてきた母さんは不思議なくらい元気になりました。

朝、目が覚めると「母さん今日はこうしたらいいよ」といつも教えてもらって、見えない声に支えられて今日まで過ごしてきました。いつもみんなに、「どうしてそんなに元気なの？」と言われるくらいがんばっています。

コスモスの花が咲き乱れる頃になると、あの日を思い出して涙が止まらなくなります。今日も洗濯物を干しながら、泣いてしまいました。16年前の9月19日、「お母さん、悟志くんが亡くなりました。」と大学のお友達から電話をいただき、「どうして、どうして」と泣き叫び、尋ね続けました。涙の枯れるまで、目が見えなくなるまで泣きはらしました。出口のないトンネルに入ったまま、いったいどのくらい過ごしたでしょう。あ那时的風、空気、花の香、何もかもが忘れられません。でも、お兄ちゃんの死を通して、母さんの生き方は180度変わりました。「今をいっぱい生き、今度天国で悟志くんに会えたときは胸をはっていい人生でした」と言える母さんでありたいと思います。まだまだ生きていますので道しるべお願いね。素直にいつもいつも耳を傾けています。すると本当に不思議なことがたくさん出てきます。静かに悟志くんの言うとおりに生きていたら意外と毎日楽しいんですよ。「悟志くん、お母さんの子どもに生まれてきてくれてありがとう」そして「21年間たくさんの思い出をありがとう」お互いに楽しんで、また、天国でお会いしましょう。

お兄ちゃんへ

お母さんより

33年経って思うことは、兄を失った悲しみは決して色あせることはないということです。それだけ、人の命は重いのです。最近、いじめ問題に接するたびに、「いじめは命に対するこの上ない冒とく（神聖なものをおかしげがすこと）だ」と感じます。

「はえば立て立てば歩めの親心（生まれた子供がはうようになれば、早く立たないかと思ひ、立つようになれば早く歩くようにならないかと思ふ親心）」とはよく言ったもの。生まれたときから、ちょっとしたことで喜び、ちょっとしたことで心配し、また、ちょっとしたことで感動して涙が出る…。そうして育ててもらったのが君たち一人一人の大切な命なのです。そんな自分の命、そしてすべての人の命を大切に生きてほしいと心から願います。

冬休みは家族と楽しい時間を過ごし、3学期、皆さんが元気に登校してくれることを心待ちにしています。